

ワクチンの流通情報の基盤整備に向けた検討会
第3回検討会資料

ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

1. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

第2回検討会議論をふまえ、行政関係者（国・都道府県・市町村）のみでワクチンの流通情報を活用するのではなく、
ならず、広く国民に向けても情報開示するため、「ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）」を厚生労働省ホームページ
等に開設する。

ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称） イメージ

開設方法

- 厚生労働省ホームページ等に開設

掲載情報

- ワクチン流通に関する**指標**を掲載し、モニタリングに活用



当検討会での検討内容

1. 情報の粒度
 2. 情報の更新頻度
- ⇒第2回検討会内容をふまえた整理内容を確認
3. モニタリングに使用する指標⇒想定されるモニタリング指標とその事例をもとに、モニタリングにあたっての課題、
その他考慮すべき事項等について検討

(注) 掲載情報や掲載イメージについては、データの状況やホームページ仕様設定により変更する可能性がある。

2. 情報粒度について

⇒情報粒度については都道府県別とすることを想定

【都道府県単位とする主な理由】

- 医療機関別の集計は、個人情報保護の観点から問題が生ずるおそれ。
- 小規模自治体の場合、市町村別集計でも医療機関が特定されるおそれ。
- 都道府県別の集計であれば、広域となるため医療機関が特定されずに地域別の状況が把握可能。

【凡例】
○ メリット
× デメリット

情報粒度				
	医療機関単位 ※医療機関関係者の個人情報保護が必要	市町村単位	都道府県単位	全国
メリット	○ <ul style="list-style-type: none"> 個別医療機関の状況が把握でき、不足や偏在が生じた場合にきめ細かに対応できる可能性 	○ <ul style="list-style-type: none"> 都道府県単位より細かく状況が把握可能（ただし、医療機関情報までは把握できないため都道府県レベルでの把握と行政実務上大幅な差異はないと想定） 	○ <ul style="list-style-type: none"> 地域別の状況が把握可能 ある程度広域となるため、データのばらつきが縮小 	—
デメリット	× <ul style="list-style-type: none"> 医療機関の規模によっては個人情報につながる可能性 情報が細かくなりすぎ、地域全体の状況把握が困難 情報のばらつきが大きくミスリードとなるおそれ ワクチン不足時にワクチンを有する医療機関への問合せや接種希望者の殺到が生ずるおそれ 	× <ul style="list-style-type: none"> 小規模自治体の場合、集計対象医療機関が特定され、個別医療機関が特定される可能性 	—	× <ul style="list-style-type: none"> 地域別の状況の把握が困難

3. 情報更新頻度について

⇒情報更新頻度については週次とすることを想定

【週次とする主な理由】

- ワクチン流通の状況をタイムリーに把握し、不足・偏在を判断した上で、早期に対応を取ることが望ましいが、月次単位では最大1か月前の状況の反映となるため、対応が遅れるおそれ。
- 日次単位の場合、よりきめ細かな対応を行うことができる可能性があるものの、データ更新頻度が高くなることでモニタリングデータの解釈が困難になることや、情報を受け取る行政機関の負荷が高くなることが懸念。

【凡例】
○ メリット
× デメリット

		モニタリング頻度		
		日次単位	週次単位	月次単位
トピック	メリット	○ ・ よりきめ細かな対応を行うことができる可能性	○ ・ 過去データとの比較や、迅速性の担保がある程度可能であり、活用しやすいと想定	○ ・ ある程度まとまった情報であるため、ワクチン供給の傾向を大まかに把握可能
	デメリット	× ・ 指標の変動が細くなることで変化の傾向が把握しづらくなり、モニタリングデータの解釈が困難になる恐れ ・ データを処理する行政機関の負担、システムへの負荷が大きくなる懸念	—	× ・ 月次単位では1か月以上前の状況の反映となるため、対応の時期を逸するおそれ

4. モニタリング指標（案）について

⇒モニタリング指標（案）は下記が想定されるが、各指標の課題や、その他考慮すべき事項はあるか

	モニタリング指標案 (更新頻度)	算出方法	把握可能な情報	留意事項
ワクチン流通データのみで算出	① 期間別前年度比 (月次、四半期)	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の流通量を「100%」とした場合の当年度同期間流通量 (例) 2022年2月流通量÷2021年2月流通量 	一時的な供給増減	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に供給減等の異常が発生していた場合、解釈に注意が必要 週ごとの比較は変動が大きく解釈が難しくなることが想定されるため、月次又は四半期ごとの更新を想定
	② 期間別前年度比（累積） (週次、月次、四半期)	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の年度内総流通量を「100%」とした場合の当年度累積流通量 (例) 2021年4月～10月流通累積量÷2020年4月～2021年3月流通累積量 	供給ペース	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に供給減等の異常が発生していた場合、解釈に注意が必要
他のデータと組み合わせて算出	③ 期間別対象人口比（累積） (週次、月次、四半期)	<ul style="list-style-type: none"> 当年度のワクチン流通量（累積）の対象人口（延）比率 (例) 2021年10月時点累積流通量÷2021年4月時点の標準接種年齢延人口※ ※日本の脳炎の場合：3歳×2回+4歳+9歳 	接種対象者に対するワクチン供給状況	<ul style="list-style-type: none"> ワクチン別の定期接種対象年齢等を考慮することが必要 任意接種の影響について考慮が必要
	都道府県別接種率 (参考値)	<ul style="list-style-type: none"> 年度毎の把握を想定 	ワクチンの接種率	

5. 返品データの取扱いについて

⇒インフルエンザワクチンについては返品の商品習慣が存在するが、当モニタリングでは各地域にワクチンが十分流通しているかの確認を主眼とするため、指標としては返品は含めない流通量を用いることとしてはどうか。
また、返品データは参考と位置づけた上で都道府県別の公表をすることとしてはどうか。

【理由】

- 医療機関に納品されたワクチンは、納品時点で各医療機関が使用することが想定されている。
- 返品されたワクチンは、各医療機関で生じた余剰分であり、返品後、他医療機関に再度納品されることはなく、破棄される。
- そのため、返品ワクチンを差し引いたデータを用いると、実際に利用可能なワクチンの総量を過小評価してしまうこととなる。

データ事例
【日本脳炎ワクチン】

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて
指標の具体例 日本脳炎ワクチン 指標① 期間別前年度比

ワクチンメーカー（製造販売元）※1	ワクチン名	包装
一般財団法人阪大微生物病研究会	ジェービックV	1人分 バイアル 1本
KMバイオロジクス株式会社	エンセバック皮下注用	1人分 バイアル 1本

	全国		X県 （マイナス影響の大きい県）※2		Y県 （全国値と同程度の県）※2		Z県 （マイナス影響の少ない県）※2	
	量※3 （千本）	期間別 前年度比 （%）	量 （千本）	期間別 前年度比 （%）	量 （千本）	期間別 前年度比 （%）	量 （千本）	期間別 前年度比 （%）
2016年度（H28年度）	4,452	118.3%	58	116.4%	46	109.1%	255	106.0%
4～6月	1,185	112.6%	15	110.9%	13	108.3%	67	100.0%
7～9月	1,271	126.2%	17	121.8%	13	113.8%	71	111.7%
10～12月	1,005	109.0%	13	109.5%	9	94.5%	59	99.0%
1～3月	991	127.0%	13	123.6%	10	121.1%	58	115.2%
2017年度（H29年度）	4,343	97.6%	53	89.8%	44	95.5%	262	103.0%
4～6月	1,257	106.1%	16	106.6%	13	96.5%	77	115.3%
7～9月	1,097	86.3%	13	75.4%	11	84.6%	67	94.4%
10～12月	1,003	99.8%	12	93.9%	10	104.9%	59	99.6%
1～3月	986	99.5%	11	85.1%	10	99.7%	60	103.0%
2018年度（H30年度）	4,737	109.1%	56	107.4%	47	108.4%	288	109.9%
4～6月	1,373	109.2%	16	98.6%	14	113.2%	83	108.3%
7～9月	1,248	113.8%	16	121.8%	12	110.4%	74	110.2%
10～12月	1,127	112.3%	12	105.2%	11	107.3%	69	116.8%
1～3月	989	100.4%	12	105.6%	10	101.3%	62	104.7%

※1 集計対象のワクチンメーカー名、ワクチン名は2021年12月時点の名称を掲載（順不同）

※2 全国値の前年度同期比で2017年7月～9月が最もマイナス幅が大きかったことから、2017年7～9月の前年度同期比でマイナス影響度判定を実施（同一地方の都道府県から選定）

※3 全メーカー・包装について合算し、「千本」単位とし小数点以下は四捨五入

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて
指標の具体例 日本脳炎ワクチン 指標② 期間別前年度比（累積）

ワクチンメーカー（製造販売元）※1		ワクチン名		包装	
一般財団法人阪大微生物病研究会		ジェービックV		1人分 バイアル 1本	
KMバイオロジクス株式会社		エンセバック皮下注用		1人分 バイアル 1本	

	全国		X県※2		Y県※2		Z県※2	
	累積量※3 （千本）	期間別 前年度比 （累積） （%）	累積量 （千本）	期間別 前年度比 （累積） （%）	累積量 （千本）	期間別 前年度比 （累積） （%）	累積量 （千本）	期間別 前年度比 （累積） （%）
2016年度（H28年度）	4,452	118.3%	58	116.4%	46	109.1%	255	106.0%
～6月	1,185	31.5%	15	30.6%	13	31.5%	67	27.8%
～9月	2,456	65.3%	33	65.2%	26	63.0%	138	57.3%
～12月	3,461	92.0%	45	90.3%	36	85.3%	197	81.9%
～3月	4,452	118.3%	58	116.4%	46	109.1%	255	106.0%
2017年度（H29年度）	4,343	97.6%	53	89.8%	44	95.5%	262	103.0%
～6月	1,257	28.2%	16	28.1%	13	27.9%	77	30.2%
～9月	2,354	52.9%	29	50.4%	24	52.3%	144	56.5%
～12月	3,357	75.4%	41	70.7%	34	73.8%	203	79.6%
～3月	4,343	97.6%	53	89.8%	44	95.5%	262	103.0%
2018年度（H30年度）	4,737	109.1%	56	107.4%	47	108.4%	288	109.9%
～6月	1,373	31.6%	16	30.8%	14	33.1%	83	31.8%
～9月	2,621	60.4%	32	61.2%	27	61.4%	157	59.9%
～12月	3,748	86.3%	45	84.9%	37	85.4%	226	86.1%
～3月	4,737	109.1%	56	107.4%	47	108.4%	288	109.9%

※1 集計対象のワクチンメーカー名、ワクチン名は2021年12月時点の名称を掲載（順不同）

※2 掲載事例は前頁と同じ都道府県

※3 全メーカー・包装について合算し、「千本」単位とし小数点以下は四捨五入

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて
指標の具体例 日本脳炎ワクチン 指標③ 期間別対象人口比（累積）

ワクチンメーカー（製造販売元）※1	ワクチン名	包装
一般財団法人阪大微生物病研究会	ジェービックV	1人分 バイアル1本
KMバイオロジクス株式会社	エンセバック皮下注用	1人分 バイアル1本

【参考】日本脳炎接種率（全国2017年度）1期初回1回：104.1% 2回：102.4% 1期追加：98.3% 2期：60.4%⇒全体平均**91.0%**

	全国		X県※2		Y県※2		Z県※2	
	累積量※3 （千本）	期間別対象 人口比（累積） （%）	累積量 （千本）	期間別対象 人口比（累積） （%）	累積量 （千本）	期間別対象 人口比（累積） （%）	累積量 （千本）	期間別対象 人口比（累積） （%）
推計対象者（千人）※4	4,125	—	53	—	43	—	283	—
2016年度（H28年度）	4,452	107.9%	58	109.8%	46	105.5%	255	90.0%
～6月	1,185	28.7%	15	28.9%	13	30.5%	67	23.6%
～9月	2,456	59.5%	33	61.4%	26	61.0%	138	48.7%
～12月	3,461	83.9%	45	85.1%	36	82.5%	197	69.6%
～3月	4,452	107.9%	58	109.8%	46	105.5%	255	90.0%
2017年度（H29年度）	4,343	105.3%	53	98.5%	44	100.7%	262	92.7%
～6月	1,257	30.5%	16	30.8%	13	29.4%	77	27.2%
～9月	2,354	57.1%	29	55.3%	24	55.2%	144	50.9%
～12月	3,357	81.4%	41	77.6%	34	77.8%	203	71.7%
～3月	4,343	105.3%	53	98.5%	44	100.7%	262	92.7%
2018年度（H30年度）	4,737	114.8%	56	105.8%	47	109.3%	288	101.9%
～6月	1,373	33.3%	16	30.4%	14	33.3%	83	29.4%
～9月	2,621	63.5%	32	60.3%	27	61.8%	157	55.5%
～12月	3,748	90.9%	45	83.7%	37	86.1%	226	79.8%
～3月	4,737	114.8%	56	105.8%	47	109.3%	288	101.9%

※1 集計対象のワクチンメーカー名、ワクチン名は2021年12月時点の名称を掲載（順不同）

※2 掲載事例は前頁と同じ都道府県

※3 全メーカー・包装について合算し、「千本」単位とし小数点以下は四捨五入

※4 対象者数は、2015年国勢調査人口より、3歳×2回、4歳×1回、9歳×1回接種を受けるものと設定した延べ人数、また、国勢調査人口（更新は5年に1回）を使用しているため、掲載3か年は同じ対象者数を母数に用い、期間別対象人口比を算出

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 日本脳炎ワクチン 2021年度データ例 期間別前年度比（累積）【週次・全国】

2021年度（4月～12月、週次）全国・サンプル地域 期間別前年度比（累積）

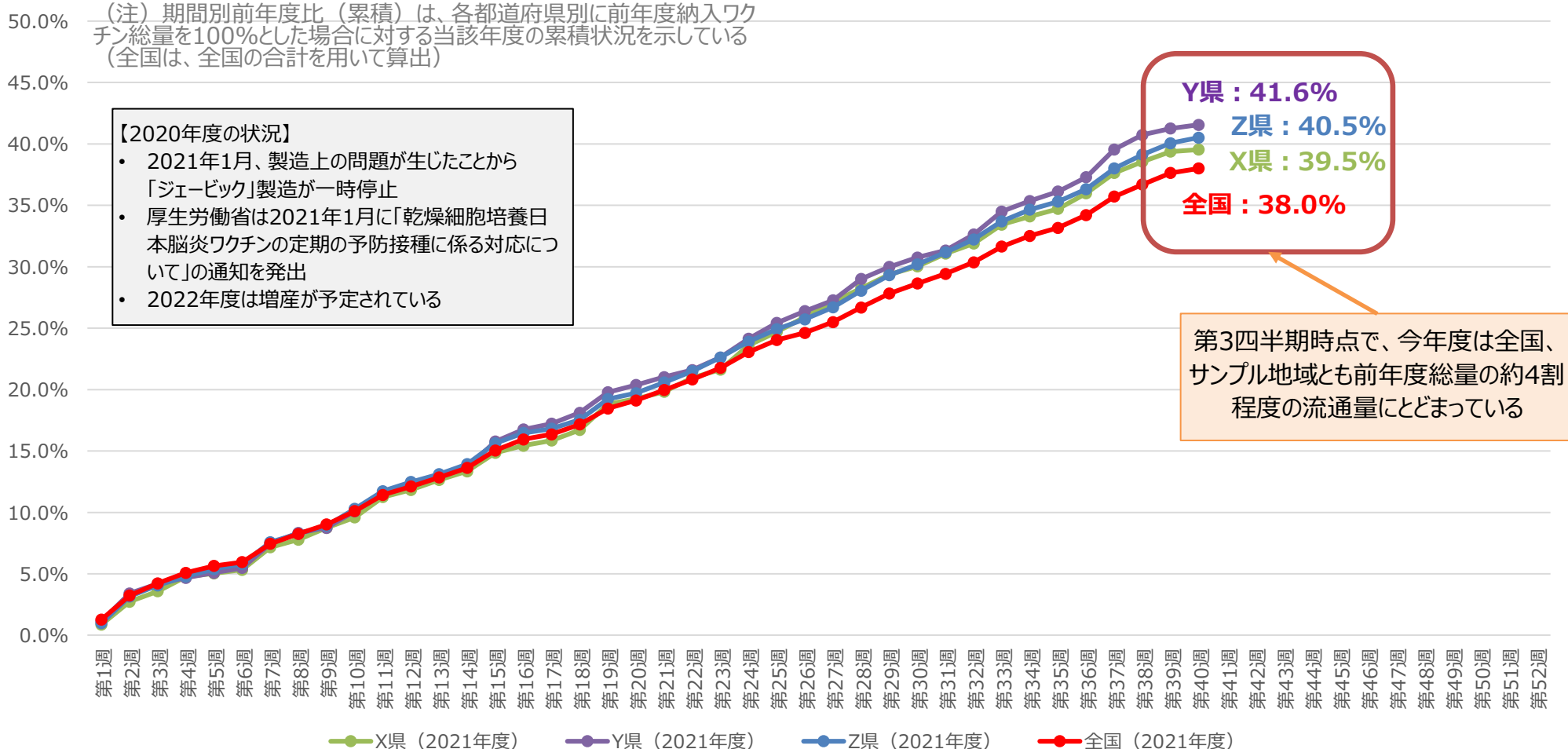
※掲載データ時点はP7～9とは異なる

期間別前年度比（累積）

(注) 期間別前年度比（累積）は、各都道府県別に前年度納入ワクチン総量を100%とした場合に対する当該年度の累積状況を示している（全国は、全国の合計を用いて算出）

【2020年度の状況】

- 2021年1月、製造上の問題が生じたことから「ジェービック」製造が一時停止
- 厚生労働省は2021年1月に「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの定期的予防接種に係る対応について」の通知を発出
- 2022年度は増産が予定されている



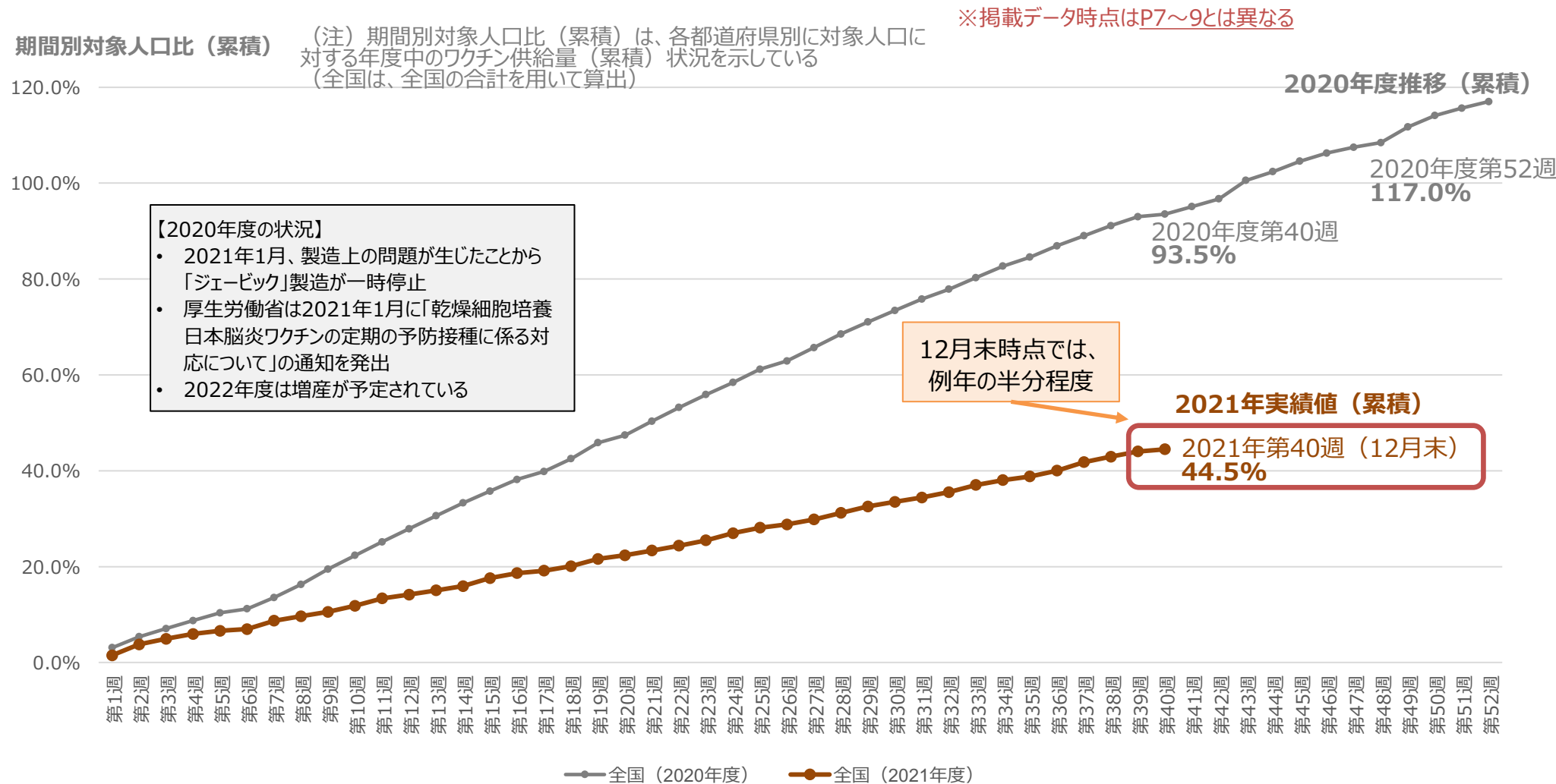
第3四半期時点で、今年度は全国、サンプル地域とも前年度総量の約4割程度の流通量にとどまっている

(注1) 週の開始日は土曜日、終了日は金曜日にて設定
 (注2) 前年度合計は、前年度の第1週～第52週合計を用いているため、曜日の関係で4月1月～3月31日を集計する場合と合計値は一致しない。

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 日本脳炎ワクチン 2021年度データ例 期間別対象人口比（累積）【週次・全国】

2021年度（4月～12月、週次）全国 期間別対象人口比（累積）



（注1）週の開始日は土曜日、終了日は金曜日にて設定
 （注2）推計対象者数は2020年国勢調査人口を元に算出

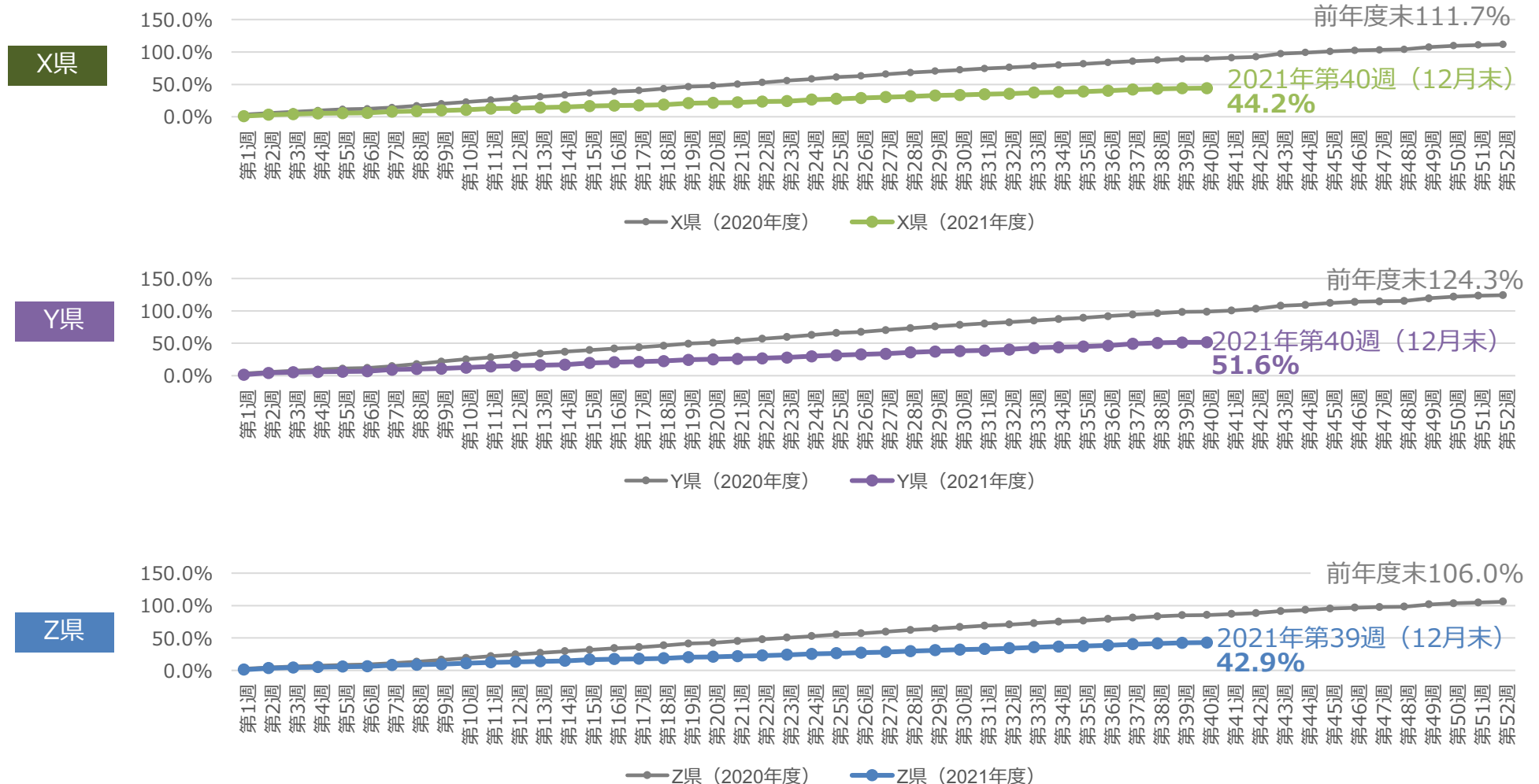
5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 日本脳炎ワクチン 2021年度データ例 期間別対象人口比（累積）【週次・サンプル地域】

2021年度（4月～12月、週次）サンプル地域 期間別対象人口比（累積）

期間別対象人口比（累積）

※掲載データ時点はP7～9とは異なる



(注1) 週の開始日は土曜日、終了日は金曜日にて設定
 (注2) 推計対象者数は2020年国勢調査人口を元に算出

出典：IQVIAソリューションズジャパン株式会社提供資料を基に事務局にて作成

データ事例
【インフルエンザワクチン】

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 インフルエンザワクチン 指標② 期間別前年度比（累積）

ワクチンメーカー（製造販売元）※1	ワクチン名※1	包装※1
第一三共株式会社	インフルエンザHAワクチン「第一三共」1mL、インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.5mL、 インフルエンザHAワクチン「第一三共」シリンジ0.25mL	バイアル1ml 2本、シリンジ0.5ml 5本、シリンジ0.25ml 1本
K Mバイオロジクス株式会社	インフルエンザHAワクチン「K M B」 インフルエンザHAワクチン“化血研”	バイアル1ml 2本 バイアル1ml 2本
一般財団法人阪大微生物病研究会	ピケンHA、フルービックHA フルービックHAシリンジ	バイアル1ml 2本、バイアル0.5ml 2本 シリンジ0.5ml 2本
デンカ生研株式会社・デンカ株式会社	インフルエンザHAワクチン「生研」	バイアル1ml 1本
北里第一三共ワクチン株式会社	インフルエンザHAワクチン「北里第一三共」1 mL、インフルエンザHAワクチン「北里第一三共」シリンジ0.5mL、 インフルエンザHAワクチン「北里第一三共」シリンジ0.25mL	バイアル1 ml 2本、シリンジ0.5ml 5本、シリンジ0.25ml 1本

※1 集計対象のワクチンメーカー、ワクチン名は販売時点名称を掲載（順不同）、販売元違いも含む。現在販売されていない製品については販売時点の名称・包装を記載（下記集計対象期間未販売製品は非掲載）

	全国		D県※2 （マイナス影響の大きい県）		E県※2 （全国値と同程度の県）		F県※2 （マイナス影響の少ない県）	
	累積の量 （千回分※4）	期間別前年度比 （累積）（%）	累積の量 （千回分）	期間別前年度比 （累積）（%）	累積の量 （千回分）	期間別前年度比 （累積）（%）	累積の量 （千回分）	期間別前年度比 （累積）（%）
2017年度（H29年度）※3	49,445	98.1%	1,480	91.5%	587	96.8%	1,815	134.1%
9・10月	20,522	104.3%	621	95.6%	221	109.8%	780	151.4%
～11月	40,648	92.2%	1,223	85.5%	481	93.7%	1,546	133.2%
～12月	49,254	98.0%	1,476	91.5%	584	96.6%	1,807	133.9%
～3月	49,445	98.1%	1,480	91.5%	587	96.8%	1,815	134.1%
2018年度（H30年度）※3	52,083	105.3%	1,545	104.4%	623	106.3%	1,900	104.7%
9・10月	24,999	121.8%	756	121.9%	253	114.8%	905	116.0%
～11月	43,477	107.0%	1,277	104.4%	513	106.6%	1,601	103.6%
～12月	51,772	105.1%	1,539	104.3%	618	105.9%	1,890	104.6%
～3月	52,083	105.3%	1,545	104.4%	623	106.3%	1,900	104.7%
2019年度（H31年度）※3	56,643	108.8%	1,686	109.1%	660	105.9%	2,074	109.2%
9・10月	30,813	123.3%	935	123.6%	302	119.1%	1,080	119.3%
～11月	52,524	120.8%	1,589	124.4%	599	116.7%	1,908	119.2%
～12月	56,561	109.3%	1,684	109.5%	658	106.5%	2,072	109.6%
～3月	56,643	108.8%	1,686	109.1%	660	105.9%	2,074	109.2%

※2 近年で最も供給量が少なかった2017年度（H29年度）のシーズン全体の供給量の影響度合いで選定

※3 年度中のシーズンを9月～3月として集計し、4月～8月データは集計対象外

※4 全メーカー・包装について0.5mlを1回分として換算し「千回」単位とし小数点以下は四捨五入、
返品データは含めず

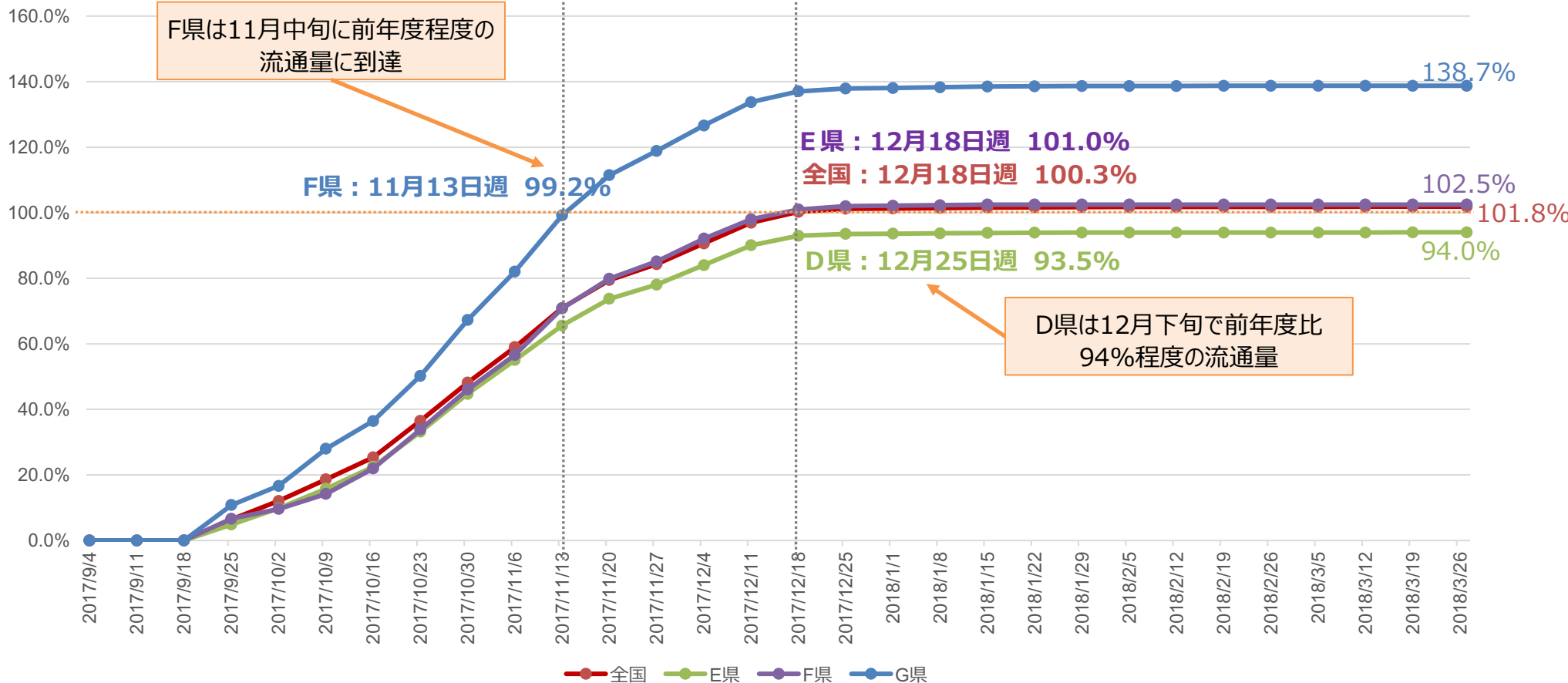
出典：エンサイズ株式会社提供資料を基に作成 14

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 インフルエンザワクチン 指標② 期間別前年度比（累積） 【週次データ】

2017年度（9月～3月、週次）全国・サンプル地域 ②期間別前年度比（累積）

期間別前年度比（累積）



(注1) 週の開始日は月曜日、終了日は日曜日

(注2) 週次は曜日、月次・四半期・年次は日付を起点に集計しているため、集計期間にずれ

(注3) 週次データは週次単位で四捨五入（千本単位）しているため、端数処理の関係で、前頁と対前年比%は一致せず

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて
指標の具体例 インフルエンザワクチン 指標③ 期間別対象人口比（累積）

	全国		D県※1 (マイナス影響の大きい県)		E県※1 (全国値と同程度の県)		F県※1 (マイナス影響の少ない県)	
	累積量 (千回分※4)	期間別対象 人口比（累積） (%)	累積量 (千回分)	期間別対象 人口比（累積） (%)	累積の量 (千回分)	期間別対象 人口比（累積） (%)	累積の量 (千回分)	期間別対象 人口比（累積） (%)
2017年度対象者数※2（千人）		34,273		1,051		394		1,514
2018年度対象者数※2（千人）		34,794		1,067		399		1,536
2019年度対象者数※2（千人）		35,185		1,079		403		1,554
2017年度（H29年度）※3	49,445	144.3%	1,480	140.8%	587	148.9%	1,815	119.9%
9・10月	20,522	59.9%	621	59.0%	221	56.0%	780	51.5%
～11月	40,648	118.6%	1,223	116.3%	481	122.1%	1,546	102.1%
～12月	49,254	143.7%	1,476	140.4%	584	148.1%	1,807	119.3%
～3月	49,445	144.3%	1,480	140.8%	587	148.9%	1,815	119.9%
2018年度（H30年度）	52,083	149.7%	1,545	144.7%	623	156.2%	1,900	123.7%
9・10月	24,999	71.8%	756	70.9%	253	63.5%	905	58.9%
～11月	43,477	125.0%	1,277	119.6%	513	128.5%	1,601	104.2%
～12月	51,772	148.8%	1,539	144.2%	618	154.8%	1,890	123.0%
～3月	52,083	149.7%	1,545	144.7%	623	156.2%	1,900	123.7%
2019年度（H31年度）	56,643	161.0%	1,686	156.2%	660	163.9%	2,074	133.5%
9・10月	30,813	87.6%	935	86.7%	302	75.0%	1,080	69.5%
11月	52,524	149.3%	1,589	147.2%	599	148.7%	1,908	122.8%
12月	56,561	160.8%	1,684	156.1%	658	163.4%	2,072	133.4%
～3月	56,643	161.0%	1,686	156.2%	660	163.9%	2,074	133.5%

※1 選定地域はP14と同様

※2 対象人口は住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）の65歳以上人口

※3 年度中のシーズンを9月～3月として集計し、4月～8月データは集計対象外

※4集計対象のワクチンメーカー、ワクチン名はP14と同様。全メーカー・包装について0.5mlを1回分として換算し「千回」単位とし小数点以下は四捨五入、**返品データは含めず**

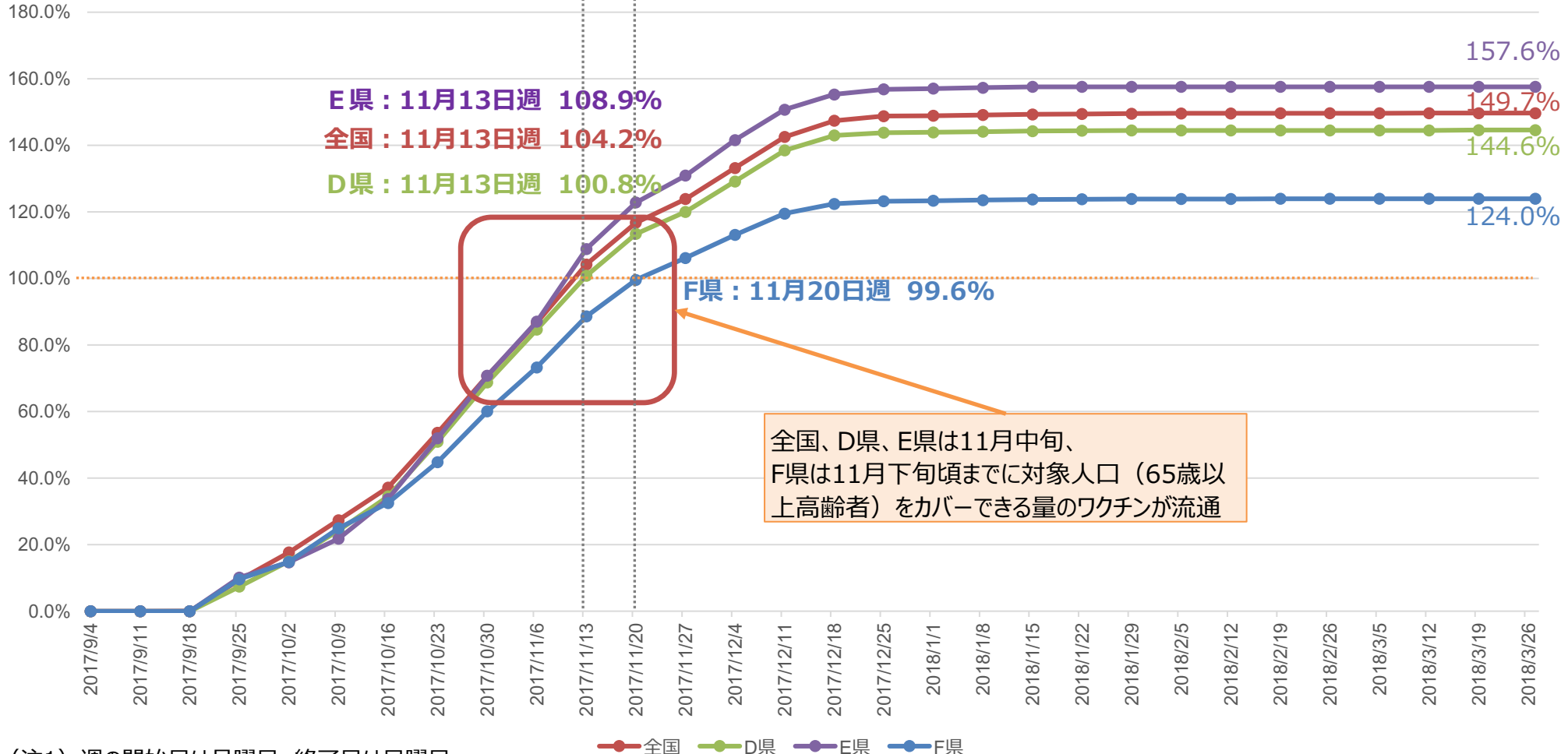
出典：エンサイズ株式会社提供資料を基に事務局にて作成

5. ワクチン流通状況ダッシュボード（仮称）イメージについて

指標の具体例 インフルエンザワクチン 指標③ 期間別対象人口比（累積）【週次データ】

2017年度（9月～3月、週次）全国・サンプル地域 ③期間別対象人口比（累積）

期間別対象人口比（累積）（対65歳以上人口）



(注1) 週の開始日は月曜日、終了日は日曜日

(注2) 週次は曜日、月次・四半期・年次は日付を起点に集計しているため、集計期間にずれ

(注3) 週次データは週次単位で四捨五入（千本単位）しているため、端数処理の関係で、前頁と対前年比%は一致せず